



ХӨДӨЛМӨР,  
НИЙГМИЙН ХАМГААЛЛЫН ЯАМ



JAPAN INTERNATIONAL  
COOPERATION AGENCY

## ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト

**(DPUB)**

ニュースレター第18号



### 障害勉強会の実施 (2018.07.31)

7月25日に国立リハビリテーション・センターにて第4回障害勉強会を開催しました。今回は「モンゴルの障害児教育の取組と他国の事例」をテーマに、約50名の参加者と議論しました。千葉チーフが、インクルーシブ教育、特別支援教育、その他の形態の教育について、モンゴル、日本、タイの事例をもとに、紹介しました。一般的に障害児は学校教育から取り残されることが多く、障害児を含むすべての児童の教育を人権として促進することが世界各国で求められています。モンゴルでは教育を受けている障害児のうち、2割程度のみが特別支援学校に通学しており、その他の多くが通常の義務教育課程等に通学しているという特徴があります。しかし、その障害児教育統計の取り方が正しいのかどうか、また義務教育課程に障害児が通学していたとしても必要な配慮や教育体制があるのかどうか、を良く見極めていくことが必要だという意見等がありました。なお、今回は、フェイスブック上でのライブ配信も行いました。勉強会に参加できなかった方々にも情報提供できていれば幸いです。



勉強会の参加者

### JICA DPUBのFACEBOOKページに

「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページの「いいね」が2760件に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。



DETのスキルアップ目指すファシリテーター

### DET、夏休みも特訓中(2018.07.18)

7,8月はモンゴルのベストシーズン。多くのモンゴルの人たちは休暇を取って地方で自然を満喫します。そんなナーダム直前の7月10日、3人のファシリテーターがプロジェクト事務所を訪れました。DETの勉強会に参加したのはドゥーリムさん、ネメフさん、バブさん。手話通訳はゴマーレルさんが担当しました。「演習のまとめ方や効果的なファシリテーションを詳しく学びたい」。熱心な3人からの質問が止まりません。参加者の回答例をもとに、掘り下げる質問や横に展開する質問の仕方などを復習しました。9月からDETの依頼が増えていきます。その前にしっかり準備をしましょう！これからも不定期で少人数の勉強会を行います。

## 国連の仕事： 情報アクセシビリティとその意義

2001年、バンコクではインターネットカフェが大流行してました。各家庭にまだネットが



千葉チーフアドバイザー

なく、スマホもなく、カフェに行ってメールやウェブサイトがチェックできるので、非常に便利。旅行者もタイ人も大いに活用してました。その時、途上国にもネット社会の到来を強く感じました。他方、障害者もネットから恩恵を受けていたかという、必ずしもそうではなく、バリアも多かったのです。視覚障害者が利用する音声読み上げソフトは高額で購入が難しく、情報アクセシビリティという概念も普及していませんでした。障害者にもこれからはネットです、パソコンですと訴えても、途上国では健常者だって使ってませんと言われることもよくありました。しかし、障害者xインターネットは、間違いなく普及すると感じていた私にとって、国連ESCAPの仕事は非常に興味深いものでした。情報社会が構築され始めた今だからこそ、情報アクセシビリティを確保しなければいけない。その方針に魅了されてました。

(つづく・・・)

## 年金で社会を変える！JICA技術協力プロジェクト連携セミナーの実施 (2018. 07. 27)

「社会保険実施能力強化プロジェクト (SINRAI)」の山下チーフアドバイザーに「モンゴルの社会保障の発展と経済成長の同時実現」と題し、障害者団体を中心に講演頂きました。DPUBでは、障害関連に関する勉強会を毎月開催してありますが、今回はSINRAIとの特別コラボで、新鮮なテーマになりました。障害分野では、社会保障や年金制度が非常に重要です。それは、障害者や障害者団体をいくらエンパワーしても、結局、人材を活かす基盤としての社会保障制度や支援制度がないと、各団体の活動が維持できないからです。一方、先進諸国を見ると、どこの国にも必ず社会保障制度が整備されており、社会貢献活動をする団体への資源が確保されています。しかし途上国では、経済が発展しておらず、財源がないという理由から、NGOなどへの支援体制が脆弱です。しかし山下CAの講義を聞けば、経済発展をしていないから財源がないのではなく、社会保障制度を整え、そこから生まれる財源を上手く活用していないから財源がないのであり、ひいては経済発展にもつながっていない、ということがよく分かります。つまり、経済が発展している国が先進国なのではなく、社会保障制度が整っている国が先進国なのです。そして社会保障制度が整っていない国は途上国となります。障害分野の発展には、社会保障制度が欠かせません。社会保障は経済発展の負担と考える傾向が昔は主流でした。しかし山下CAは、社会保障こそが経済発展に繋がると考えています。



山下チーフアドバイザー



セミナーの様子

だから「社会保障の発展と経済成長の同時実現」なのです。ということは、障害者の社会参加を促進し社会保障制度を整備することで、モンゴルの経済が発展し、ひいてはすべての人が住みよい社会に通じるということです。DPUBもこの考えに賛同し、今回、山下CAの講義をぜひ障害者の方々にも届けたいと思いました。狙いは成功し、多くの参加者が今回のセミナーに満足し、刺激を受けて帰って行きました。今後DPUBでは、この発想を更に広げ、モンゴルの社会・経済発展に貢献したいと考えています。

### DPUB連絡先

**Office:** Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection

Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

**Facebook:** <https://www.facebook.com/jicadpub>

**Website:** <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

**E-mail:** [dpub.jica@gmail.com](mailto:dpub.jica@gmail.com)